

今回は札幌西円山病院内のレストラン「ピュア」と喫茶「フレッシュ」についてご紹介します。12時を過ぎるとオープンキッチンのカウンターには行列ができ、ご家族や職員に大変喜ばれています。毎日110～200食出ているとのこと。人気メニューはランチセット。メインディッシュが魚、肉、麺類（丼類）の3種類のセットがあり、その他カレーライスやスパゲッティなどの単品もあります。人気メニューは、あっという間に売れ切れてしまいます。また喫茶では月1回、患者・ご家族様向けに会食プラン（2,500～3,000円）を実施しており、事前に予約を入れて頂いた上で院内栄養士と連携して患者様に合った食形態で提供しています。レストランは営業時間外でも出入りは自由で、夜は札幌の夜景を見渡すことができる絶景ポイントです。来院した際には是非お立ち寄りください。



レストラン「ピュア」  
喫茶「フレッシュ」

場所：札幌西円山病院内 東棟5階  
営業時間：レストラン／11:00～15:00(平日)、11:00～14:00(土日祝)  
喫茶／10:00～15:00(平日、土日祝)

ロビーコンサート  
秋の楓  
コンサート



演奏：S & YOU  
(テナーサクソフと  
キーボード)

11/29(日)S&YOUのお二人をお招きして秋の楓コンサートを開催しました。テナーサクソフとキーボードで、「青い山脈」や「長崎は今日も雨だった」など馴染み深い曲目を演奏して頂いたため、患者様やご家族様も一緒に口ずさみながらとても楽しい時間を過ごしていただきました。

S&YOUはご夫婦で活動をされているのですが、キーボードを演奏する奥様は、なんと60歳を超えてからキーボードの練習を始めたそうですよ!! ご夫婦で毎日の練習を欠かさず行っているとお話をされており、演奏中はアイコンタクトで呼吸を合わせる場面もあって、外は寒い季節となりましたが、とっても“ほっこり”とした温かいコンサートでした。



編集後記  
2016



札幌にも雪が降り積もり、本格的な冬がやってきましたね。皆さま体調など崩されてはいませんか？

そしてあっという間に2015年も終わり、2016年を迎えました。今年はリオデジャネイロオリンピックが開催される予定で、また世界が賑わうことでしょうね！

にしまるやま通信でも、皆さまに楽しんでいただけるような情報を発信していきたいと思っておりますので、今年もにしまるやま通信、札幌西円山病院をよろしくお願い致します！

すべての  
お問い合わせは

郵便 〒064-8557  
札幌市中央区円山西町4丁目7-25  
札幌西円山病院 地域連携推進室内  
広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

お気軽にお問い合わせ下さい!

電話 (011) 644-1380  
FAX (011) 642-4347

[医療法人溪仁会 札幌西円山病院 広報誌]

にしまるやま通信

発行日 2016.1.1

No.96

2016年 年頭所感



医療法人溪仁会  
札幌西円山病院 院長  
浦 信 行

わが国の昨今の医療を取り巻く現状は大きく変化しています。特に高齢者医療に関しては、入院主体の長期療養から、施設入所を含む在宅医療へと、流れは大きく変わりつつあります。自宅で家族に囲まれながらの療養は誰しも望むところであり、その実現のために私たち医療関係者がサポートすることは当然のことです。身体機能が低下し、移動もままならない患者さんでも、当院のスタッフ達の努力と工夫によって外出や外泊を試み、それが成就されたときのご本人、そしてご家族の笑顔は何事にも代えがたいものであり、私たちにとっての大きな働き甲斐のひとつです。そのようなケアが、施設を含む在宅復帰をかなえる一助になることを期待して、当院職員一同日々努力を重ねています。しかし、一層の高齢化が進む中、年齢と共に身体機能は低下することから、すべての患者さんが在宅復帰を果たせるわけではなく、病院での入院医療のニーズはなくなることはありません。むしろ多様化したニーズの各々に合致する医療の展開が求められています。

札幌西円山病院は、多様化する高齢者医療のニーズに応えるため、昨年より病院・病棟機能として「癌・看取り・認知症・神経内科」診療の強化を掲げております。これらの医療分野は高齢化に連動して一層強く求められるものです。そのための専門医師の確保と、対応できる病棟にするための改築や検査機器の導入、そして各職種のスタッフの育成を逐次進めています。これまで以上に地域の医療ニーズにも応えていくために、職員一丸となって努力し、一歩一歩前に進んでいこうと思っています。

- 年頭所感 ● 地域包括ケアシステム概要 Vol.5
- 病棟再編について ● 古着リユースボランティア ● 認知症カフェ
- まるやま SUN-PO! ⑨ ● ロビーコンサート ● 編集後記

\* \* 札幌西円山病院のご案内 \* \*

■ 診療科目 内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器内科、歯科  
■ 病床数 780床(障害者施設等一般病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、介護療養型医療施設)

# 地域包括ケアシステムの概要 Vol.5

札幌西円山病院 MSW 大植 友樹

## 理想的な社会を目指して・・・

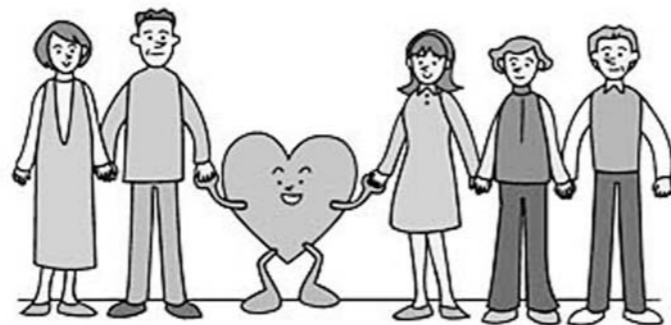
さて、地域包括ケアシステムをテーマに連載させて頂きましたが、5回目の今回で最後です。少し抽象的ではありますが、私が考える地域包括ケアシステムの目指すべき方向性を述べさせて頂きます。

まず、地域包括ケアシステムとは本人の選択と覚悟を踏まえた上で「住まい」を中心に考えます。住まいは、多様化してきておりますが、変わらない事は、住んでいる場所には、同じ地域で住む方々がいらっしやいます。その地縁の集合体が町内会です。町内会の幾つかの集まりを連合町内会と位置づけている事が多くあります。この辺りで地域包括ケアシステムが提唱する30分圏内・中学校区の範囲になるでしょう。中心となる住まいが主体的にネットワークを作っていくためには、町内会や連合町内会の中で地域特性を考慮した地域包括ケアシステムを作っていく力を専門職が支援していく事が重要であると考えます。自助・互助の観点から、オリジナルの地域を作り、共助や公助にあたる医療や介護や行政サービス等を把握し、民間も行政も住民も連帯していける柔軟性が必要でしょう。その意味でも、高齢者の方が住み替えされる機会の多いサービス付き高齢者住宅の生活相談員の役割は住居者と地域を繋ぐ意味で大きいと考えております。もちろん地域毎に地域包括支援センターや社会福祉協議会等も設置され、地域ケア会議もスタートし始めているため、これからは重層的なネットワークを基礎とした地域作りは推進されてきていると思います。ただ多くの地域で、地域全体をマネジメントする難しさを感じられている事も多いと思います。

先日、道内各地で活躍されている主任ケアマネージャーの方々と交流する機会を頂きましたが、それぞれが個別ニーズからしっかりと地域課題を明確にし、仮に認知症になったとしても住みやすい地域作りをテーマに真剣に議論されておりました。地域事情の違う方々がグループワークを行いました。新たな発見をいくつも発表されており、大きなパワーを感じました。地域特性はあっても、他の地域の良い取り組みは参考になる事を主任ケアマネージャーの方は知っておりましたし、頼もしさを感じる程の熱気でした。個々では、地域で奮闘しており、そこをどのように繋ぎ合わせるかが重要であると思われました。

地域包括ケアシステムとは、住民が住みやすい優しい街を目指して住民自身が努力する事だと思っております。これから迎える人口動態の変化を受け入れた上で、住みつけられる物語を地域毎に作っていくことでしょう。それぞれの街対抗で、10年後の街物語を出し合う事も一つのきっかけになるかもしれません。

これから迎える「人口減少」「少子化」「高齢化」「低経済成長」「多額の国債」「都市化」等、あらゆる現状を受け入れた上で、明るい未来を語れることが地域にも組織にも重要となります。その地域の明るい将来像を目指し、住民も行政もその地域で仕事をしている方々も一致団結し、前を向いて進み続ける事で地域包括ケアシステムという物が見えてくるはずで。地域包括ケアシステムは決まった形がなく、概念的な物ではありますが、一言で表すと私は「地域の明るい未来予想図」と思っております。明るい未来を作るために他の地域と手を組んで考えなければいけない事も出てくるでしょう。2025年を超えても、新たな課題は必ずやってきます。常に地域毎に未来予想図を考え、次世代に繋いでいく事が、大切であるという事で、5回と短い連載でしたが終わりとさせて頂きます。お読み頂き、誠にありがとうございました。



## 西棟に3病棟がオープンしました!

西棟3階は、2つの介護療養病棟から成り立っていましたが、2015年12月1日より41床ベッドを削減し、1病棟60床からなる新名称「3病棟」へとリモデル致しました。工事期間、患者様やご家族、関係者の皆様にはご協力を頂き感謝申し上げます。

今回の工事は設備老朽化への対応、患者様のプライバシー確保や、より適切なケアができる環境を整備するために、4人部屋から3人部屋に改修工事を行いました。ベッドサイドに今までよりゆとりができ、室内も暖色系の柔らかい印象になりました。また、フロア中央にオープン形式のナースステーションとデイルームを配置し、開放的なイメージに変わりました。

しかし、残念ながら厚生労働省の方針としては、介護療養病床は2018年3月末で廃止予定です。今後当院でも病棟機能の再編を検討していかなければならないこともあり、2016年1月からはこの3病棟を「医療療養病床」へ転換し、より医療的なケアの必要な患者様の療養に力を注いでいく予定です。目まぐるしく変わる診療報酬や政策動向により、私達も俊敏に対応していく力が必要です。また、利用される皆様に知る機会を提供しつつ、より関心を持って頂けたらと感じています。

## 古着リユースボランティア

西円山 Re : ユース7 (セブン)  
リーダー 清野圭司 (地域連携推進室)

9月24日(水)から10月23日(金)までの1か月間、不要となった衣類を回収してNPO団体へ寄付し、団体を通じて被災地や途上国に衣類を送る活動を行いました。これは、経営管理部の医事課、総務課、サプライサービス課、地域連携推進室の担当者が集まり自らが企画して実行した活動で、衣類を捨てずにリ・ユースする事で環境保護と社会貢献が同時に出来るものです。活動にちなみ、チーム名は「西円山 Re : ユース7 (セブン)」と命名。回収BOXもほぼ手作りで制作し、1か月間の回収の結果964.5kgと大量の衣類を回収する事が出来ました。



これはひとえに皆様がこの活動に関心を持って頂き、ご協力頂いたからこそだと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さらに溪仁会グループ内でも活動を高く評価して頂き、「溪仁会グループエコびとエコもの表彰」にて最高責任者賞(第1位)の表彰を受け、活動の励みとなりました。



他の団体でも衣類の寄付活動などを行っておりますので、興味を持った皆様はぜひ取り組んでみて下さい。

## 認知症カフェ (スマイルカフェ)

当院では、月に1回、認知症の方とご家族、地域の方を対象に認知症カフェ(名称:スマイルカフェ)を開催しております。お飲み物の提供のほか、相談会やリハビリ体験、認知症についてのミニレクチャーを行っております。

※当院のスマイルカフェは、札幌市の「認知症カフェ認証事業」認証カフェです。



■お問い合わせ先/電話: 011-642-4121(代表) 担当: 企画課・藤田、稲垣  
メール: fujita-tor@keijinkai.or.jp

○スマイルカフェ/会場: 札幌西円山病院デイケア室 (札幌市中央区円山西町4丁目7番25号)

通算回	日時	プログラム	テーマ
第14回	1月30日(土)	ミニ講座 体験コーナー	認知症のお薬について(仮) 正しいお薬の飲み方(仮)
第15回	2月20日(土)	ミニ講座 体験コーナー	生活習慣病と認知症 身体介護の秘訣教えます(その3)~おむつ・トイレ介助~
第16回	3月19日(土)	ミニ講座 体験コーナー	認知症の方への関わり方のコツ(その3) (各論的な実技を予定)

\* 時間 / 13:30~16:00  
\* 参加費 / 100円  
※ 全回とも同じ。